

# 標準化戦略ワーキンググループ(WG) の進め方について

令和元年12月24日  
事務局

## 検討の目的

- Society 5.0の実現に向けて、今後、5G、AI、IoT等の導入・利用が拡大し、グローバル規模でのデジタル化が進展することで、社会経済システムが大きく変革（デジタルトランスフォーメーション：DX）されることが期待されている。
- その中で、ICT分野における標準化の対象・役割も変化している。5Gを含むモバイル、インターネット等の社会インフラを担うネットワーク基盤に加え、DXの価値創造を担うアプリケーション・サービスの周辺領域に重点が置かれ始めている。また、昨今、ネットワーク等が繋がることを目的とするだけでなく、社会実装を加速し、市場・シェアを早期に拡大するツール・手段として、戦略的に活用されるようになってきている。
- このような状況を踏まえ、本WGでは、DXを加速し、我が国の社会経済活動の活性化・拡大に寄与する、ICT分野の効果的な標準化の在り方を検討する。

## <調査・検討の進め方>

- 別添の構成員に加え、標準化戦略WGの議論に資することを目的として、トピック毎に有識者/関係者に出席を求め、プレゼンテーション及び意見交換を通じて検討項目について議論を行う。
- 検討項目を次ページ以降に示す。

# 検討項目(案)

検討項目：デジタル化が進展する中、標準化を巡る状況・変化をどのように捉え、評価するか（現状分析）

## ➤ 検討の視点

- オープンイノベーションやデジタル化が進展する中、情報通信分野における標準化を巡る状況（目的、プロセス、スコープ、プレイヤー等）はどのように変化しているのか
- 社会実装や市場拡大を推進するツールとして、標準化はどのように活用されているのか
- デジタル及びフォーラム等各種標準化機関において、標準化の開発や社会実装を促進するためどのような取組が行われているか
- 各国及び企業は標準化に対してどのように取組んでいるか 等

### 【状況・変化の例】

#### （目的の変化）

- 標準化の完成が目的ではなく、標準化活動を通じて早期の社会実装・普及展開が促進
- 標準化をルール形成に活用 等

#### （プロセスの変化）

- 実装例を重視した決定プロセス、標準化対象技術の開発加速にOSSを活用 等

#### （スコープの変化）

- 付加価値創出や市場拡大につながるプラットフォーム（PF）/アプリ・サービス領域の取組
- 5G・beyond5G等ネットワーク（NW）基盤に加え、NWのソフト化・オープン化等の取組
- 量子・光やAI等の先端技術領域の取組
- スマートシティに関するKPI(Key Performance Indicator)等の評価指標領域の取組 等

#### （プレイヤーの変化）

- ICT利用者となる産業分野等に拡大（ホーム・ビル、工場等製造現場、都市、医療・ヘルスケア、車 等） 等

#### （各国の取組状況の変化）

- ITUにおける中韓の台頭、民間標準団体を通じた欧米の仲間作りの取組 等

# 検討項目(案)

検討項目：標準化を巡る状況が変化中、社会実装の視点を踏まえたDXを加速する我が国の標準化戦略はどうあるべきか（対応の方向性・方策）①

## （１）今後注力すべき標準化活動の領域

### ➤ 検討の視点

- DXを加速し社会実装を促進するため、今後どのような領域に注力して標準化活動を行うべきか

#### 【領域の例】

- アプリ・サービス間連携を加速する領域（デバイス/PF間のデータ流通基盤、セキュリティ・トラスト基盤、センサ等の情報モデルの整備 等）
- ネットワーク基盤領域（5Gの高度化、Beyond 5G、NWのソフト化・オープン化、エリアNW高度化 等）
- ICT先端技術領域（量子、AI 等）
- スマートシティに関するKPI等の評価指標の領域 等

## （２）特徴や取組等を踏まえた標準化機関の活用方策

### ➤ 検討の視点

- W3C、IEEE、3GPP等の実装に影響力のある標準化機関の取組（OSSの活用、相互接続イベントの実施等）や活動方針等を踏まえ、技術等の社会実装を念頭に、各標準化機関を戦略的にどのように活用すべきか
- 昨今のITU等デジュール標準化機関の取組（民間標準のデジュール化、NW等将来ビジョンの共有等）や活動方針を踏まえどのように活用すべきか
- 3GPP、ETSIなど将来NWの検討や、ONAP（Open Network Automation Platform）、ORAN（Open Radio Access Network） Alliance、TMフォーラム等のNWのオープン化を推進する団体をどう評価し活用していくのか 等

# 検討項目(案)

検討項目：標準化を巡る状況が変化中、社会実装の視点を踏まえたDXを加速する我が国の標準化戦略はどうあるべきか（対応の方向性・方策）②

## （３）推進方策（体制、推進・支援策等）

### ➤ 検討の視点

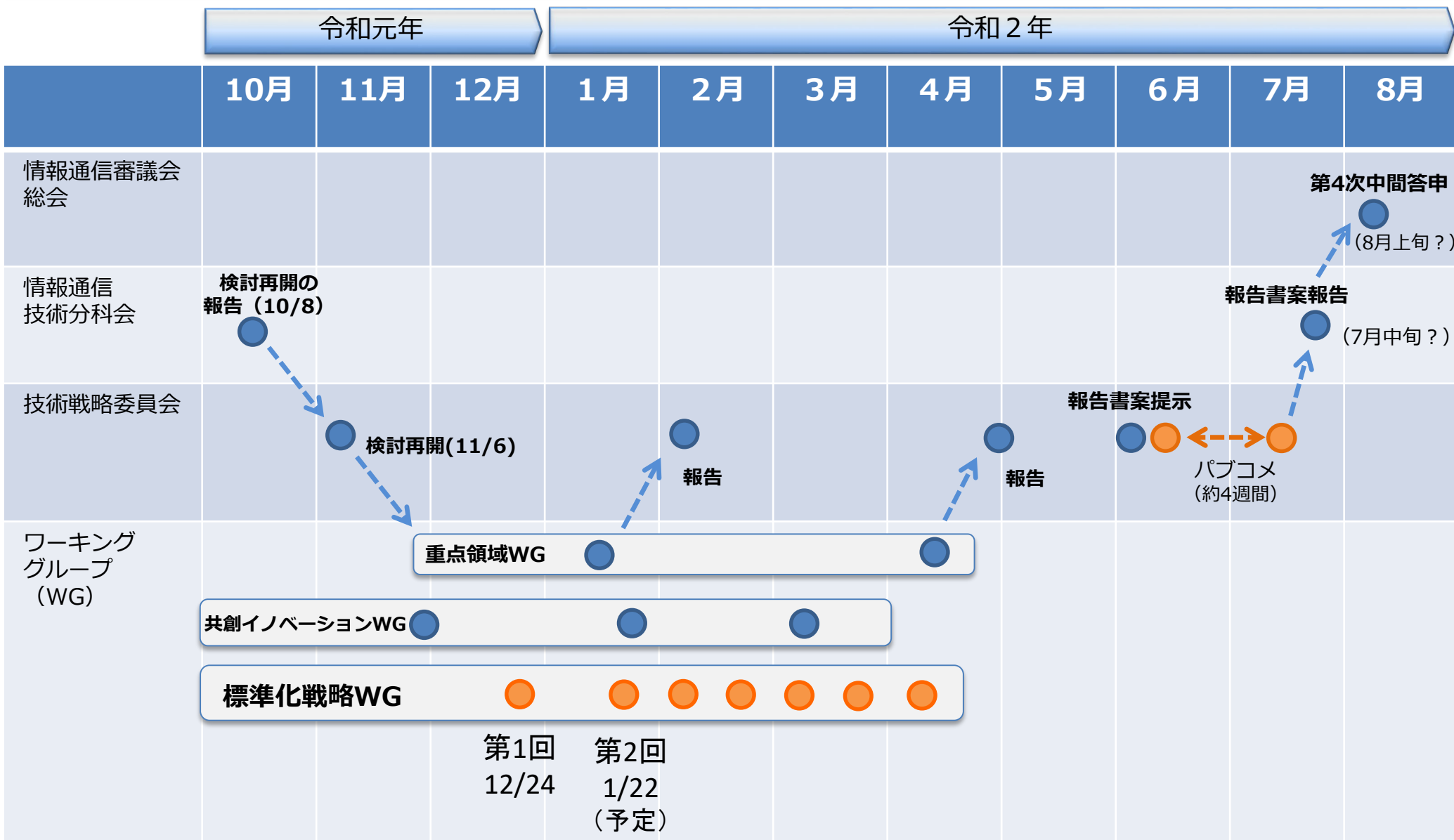
- 我が国のICT分野の標準化推進体制を強化するために産学官に求められる役割・取組は何か
- 国際的な共同研究等グローバル展開に有効な方策とは何か
- 標準化活動を戦略的に活用し社会実装を促すR&D・プロジェクトとして推進すべき領域や手法とは何か
- ICT先端研究分野の標準化活動等において、NICT等国研に求められる役割・取組とは何か
- 実装重視の標準化活動にテストベッド環境をどう活用すべきか
- TTC等国内標準化機関の一層の活用方策とは何か（国内外の標準化機関等との連携強化、標準化を活用したビジネス展開支援等）等

## （４）標準化人材の確保・育成方策

### ➤ 検討の視点

- 標準化活動を担う人材が固定化・高齢化する課題に対応するため、人材育成等にどのように取り組むべきか
- 民間等における標準化人材の確保・標準化活動に対する効果的な支援策は何か（会合参加等活動費の支援等）
- 標準化活動にインセンティブを付与する等、次世代の標準化人材を育成する有効な方法とは何か（表彰制度、標準化活動のPR、大学等の教育機関の活用等）
- 標準化活動に実績のあるシニア層の継続的な活動を支援する方策とは何か

# スケジュール(案)



※6-7回程度の会合を開催し技術戦略委員会に報告予定

# 構成員

## 構成員

### 【構成員】

下條 真司 (主任)	大阪大学 サイバーメディアセンター 教授
丹 康雄	北陸先端科学技術大学院大学 副学長
稲田 修一	早稲田大学 リサーチイノベーションセンター 研究戦略部門 教授
岩科 滋	日本電信電話(株) 研究企画部門 R&Dビジョン担当 担当部長
崎村 夏彦	(株)野村総合研究所 IT基盤技術戦略室 上席研究員
中村 修	慶応義塾大学 環境情報学部 教授
原井 洋明	国立研究開発法人情報通信研究機構 総合テストベッド研究開発推進センター 研究開発推進センター長
原田 博司	京都大学大学院 情報学研究科 通信情報システム専攻 教授
前田 洋一	一般社団法人情報通信技術委員会 代表理事専務理事
眞野 浩	一般社団法人データ流通促進協議会 代表理事/事務局長
三宅 優	(株)KDDI総合研究所 スマートセキュリティグループ グループリーダー

### 【オブザーバ】

内閣府 (科学技術・イノベーション)  
経済産業省